

VOL.7

2025.12.17発行

月刊タイガー通信

捕獲研修特集

～「相手を知る」から始まる、
真の課題解決術～

当社が取り組む「捕獲研修」。それは単なる技術習得ではなく、動物の生態を知り、現場での判断力を養うための重要な場です。森さんと片山さんに、研修を通じて培われる「総合力」と、将来の事業拡大を見据えたチームワークの重要性について語ってもらいました。併せて、動物の特性別の正しい電気さくの設置方法もご確認ください！



▲捕獲研修集合写真

研修の目的と意義

当社は、製品だけでは解決できない課題に対し、総合力で向き合う体制づくりを目指しています。そのための重要な取り組みとして実施しているのが「捕獲研修」です。本研修の核となるのは「加害個体への理解」であり、相手を知らなければ適切な対策はできません。また、研修を通じて長時間の共同作業が生まれるため、社員同士の理解が深まり、業務連携の強化にもつながっています。こうした連携に加え、今回の研修には以下の2つの目的があります。

- ①加害個体の行動を読み切り、
多様な現場で支援できる「実戦力」を育てるため
- ②危険性の高い捕獲業務を、
安全・法令・倫理に沿って遂行できる「責任者」を
育てるため

習得した技術や判断力を活かし、収穫支援へ広げていく想定です。今後も実地でのトレーニングを重ねることで、現場対応力の高い人材を育成し、事業確立に向けた土台づくりを進めていきます。



▲銃猟の様子

HSM本部
東日本営業部 部長
かた やま なお あき
片山 直明さんHSM本部 本部長
もり りん た ろ う
森 麟太郎さん

研修による変化と期待される効果

今回の研修の最大の目的は、従来の「侵入防止（防護）」に加え、新たに「捕獲」という選択肢を持つことで、鳥獣被害対策の幅を広げることにあります。

研修では、安全を最優先にしつつ対象生物の行動を読み、確実に捕獲するための実践力を磨きました。その成果は、予期せぬ形で実を結ぶこととなりました。活動中、「シカが植林した苗を食害しており、このままでは将来的な土砂崩れにつながる」という地域の方からの切実なご相談を受けた際、研修で向上した動物への接近技術とチームワークを活かすことで、即座に解決への支援を行うことができたのです。

現場の方から直接感謝の言葉をいただき、私たちの技術が地域の安全を守ることに直結すると肌で感じる機会となりました。このように、現場で求められるのは、安全確保のための瞬時の判断と、目的に向かって「まっすぐ」迅速に行動する力です。この感覚は、狩猟の現場だけでなく普段の営業や生産活動においても重要です。今後は全国どの現場でもこの実践力を活かし、「侵入させない」アプローチにとらわれない柔軟な提案で、鳥獣対策のプロフェッショナルとして貢献の幅を広げていきたいと考えています。

お客様への貢献

製品を作るだけでなく、動物の特性や現場の状況を熟知した上で対策を講じること。これは理念である「収穫支援」を実現するための、当社の変わらない姿勢です。鳥獣の生態や現場の緊張感を知ること、お客様への提案力向上にもつながります。「良い商品を作る」だけでなく、「相手を知る」ことが、より効果的な対策を生むからです。

今後ますます深刻化する鳥獣被害に対し、製品と現場対応力を掛け合わせた「総合力」で、お客様の課題解決に貢献していきます。また、普段得がたい貴重な経験を通じて視野を広げ、社内外へ説得力のある説明ができるよう、今後も知識と経験を深めていきます。

復習しよう！ 動物の特性と対策

動物の特性の再周知と電気さくの基本設定

各地で狩猟や有害捕獲の現場に立ち会う中で、これまで聞いていた話が実際にどう起きているのか、自分の目で確認する機会が増えました。カワウやサギ類によるアユなどの食害では、集団で営巣する「コロニー」の位置や規模が被害に直結しており、継続した捕獲による捕獲圧が被害の軽減に確かに効いていることを現場で実感しました。



◀電圧測定

一方で、イノシシ・シカ・クマは一般的に昼行性とされるものの、実際には薄明薄暮帯から夜間にかけても活発に行動し、こちらの行動域と重なりやすいため遭遇のリスクが高い生き物です。そのため、鳥類では時間を覚えられにくい不規則作動する機器の選択肢があり、四足獣では電気さくを昼夜問わず24時間通電させる重要性を、現地での経験を通して強く感じています。加えて、さく線の高さ設定、電圧維持、下草管理が確実な防護には欠かせません。

イノシシ・シカ

【特性と対策】

警戒心が強く、まず鼻先で安全を探る行動をよく見かけます。電気さくを設置する際は、成獣とウリ坊では鼻の位置が異なるため、くぐり抜けないようにさく線の高さ調整が必要です。

【設置方法】

イノシシは20cmと40cmの2段が標準。シカは支柱FRP185を使い20cm、40cm、60cm、80cm、110cm、145cmの6段が効果的です。

株式会社
テクノリン
ふじ た しげ み
藤田 茂己さん

クマ

【特性と対策】

体が大きく、前肢で探る動作や立ち上がる可能性があります。そのため、電気さくを設置する際は、広い範囲での接触を想定する必要があります。

【設置方法】

20cm・40cmに60cmを加えた3段張りとし、状況によっては2重張りして侵入を防ぎます。

捕獲研修

受講者の声に迫る

捕獲研修での体験は、社員の皆さんにどのような変化をもたらしたのでしょうか。わな猟と銃猟の違い、そして「命」と向き合う緊張感の中で得た気づきは、日々の業務における提案力や安全意識へと昇華されています。現場を知るからこそ語れる「生きた言葉」で、顧客との信頼関係を築く2名の奮闘をお伝えします。

捕獲研修を通じた発見と学び

わな猟と銃猟のアプローチの違いに衝撃を受けました。わな猟が動物の生活圏(面)から移動ルート(線)、設置場所(点)へと絞り込んでいく「受動的」な待ちの猟であるのに対し、銃猟はまったく逆です。足跡や寝屋といった痕跡(点)から移動ルート(線)を推測し、生活圏(面)へと視野を広げて自ら対象動物に会いに行く「能動的」な猟です。また、銃猟は対象動物に近づくとリスクがある分、厳重な「安全確保」と瞬時の「状況判断」が命綱です。山では想定外の動物や人に出会う可能性が常にあるため、装備や心構えを含めた事前準備を徹底することが大切。このリスク管理の姿勢と、思考を広げるプロセスは、そのまま日々の業務における安全意識や戦略眼につながる大きな学びとなりました。

学びの活用

研修では、事前の下見である「見切り」と、実際の猟期における動物の動きの違いを目の当たりにしました。以前は朝方に行動していた場所でも、季節が進み草木が枯れると行動範囲が変わります。机上のデータだけではわからない「生きた情報」が現場にはありました。

実体験に基づいたアドバイスをすると説得力が増すため、研修での学びがお客様への提案力に直結しました。電気さくの設定指導において「その視点はなかった」と驚かれ、被害が激減したことで「今年は農作物が収穫できた」と喜びの声をいただいたときは、自分の経験が役に立ったと強く実感しました。



HSM本部東日本営業部
甲信越営業所
こばやし まさし
小林 雅史さん

学びを実際に 活かしたこと

わな猟と銃猟で学んだ「ミクロ(点)」と「マクロ(面)」の視点の往復は、エリア戦略においても成果を生み出しています。長野県豊丘村での事例がその象徴です。当社製品の実績が少なかった長野県豊丘村に対し、私はまず行政からの鳥獣被害情報(マクロ)を分析しました。そこから特定のニーズを持つ農家さん(ミクロ)へアプローチし、さらに農協や生産組合を巻き込んだ講習会を開催することで、点から面へと普及を広げていきました。「小さいところを捉えて大きく拡大していく」。この視点を持つて動いたことで、今では多くの代理店様を通じて製品を使っていただけるようになりました。

捕獲研修を通じた発見と学び

初めての猟銃と忍び猟の壁

今回の研修に向け、春頃から銃の所持許可の手続きを進め、初めて散弾銃を手に山へ。静岡と山梨の猟場で挑んだのは、獲物が来るのを待ち忍び寄る「忍び猟」でした。日の出後、少し明るくなってきた山に入り、鹿が現れそうな場所で身を隠してひたすら待つ。しかし、野生動物の警戒心は想像以上。私の持つ銃の有効射程である約40mまで近づくことすら難しく、こちらの気配が察知されてしまいます。人間よりもはるかに優れた感覚を持つ野生動物を相手に、距離を詰めることの難しさを痛感しました。

気配を消すことの重要性

普段の生活では気にならない物音、足音、匂いが、静寂な山の中では命取りに。地形やわずかな痕跡から動物の動きを読み、枝を踏む音さえ立てないよう慎重に行動しなければなりません。そのような緊張感の中で、最終的にはカモ猟で獲物を仕留めることができました。また、仕留めた後の解体作業や、現場でのマダニへの注意など、命をいただく過程やリスク管理も含めて、現場でしか得られない多くの学びがありました。



HSM本部東日本営業部
東北営業所
すずき よしひろ
鈴木 寛大さん

学びの活用

今回の経験は、当社の製品をお客様に説明する上で大きな財産になると感じています。これまでは知識として知っていた動物の習性を、これからは実体験として語ることができるからです。「なぜこの電気さくが必要なのか」「動物はどのような場所を好むのか」といった説明に説得力が生まれ、お客様により納得していただける提案ができるはず。動物の能力のすごさを肌で感じたからこそ、その対策の必要性をより深く伝えられるようになったと思います。